別　紙

第３期広島県スポーツ推進計画骨子案

令和５年９月12日
スポーツ推進課

１　第３期計画の位置付け等

(1) 計画の位置付け

ア　安心▹誇り▹挑戦ひろしまビジョン（令和２年10月策定）のスポーツにおける分野別計画

イ　スポーツ基本法第10条に基づく県において総合的にスポーツを推進するための計画

(2) 期間

令和６年度～令和10年度（５年間）

(3) 「安心・誇り・挑戦ひろしまビジョン」における「スポーツ・文化」領域の目指す姿

ア　概ね30年後（令和32年度）のあるべき姿

広島東洋カープや広島交響楽団といった戦後復興の象徴として県民と支え合い、歴史をともに築いてきたプロフェッショナル団体等の取組や、駅伝や広島神楽など、地域が大切に育んできた、全国にも誇れるアマチュア団体等の取組によって積み重ねられてきた「広島のスポーツ・文化の伝統」に、時代が求める新たなスポーツや文化芸術の要素を取り込みながら、更に磨いていくことで、地域への愛着や誇りの醸成が進み、地域経済の活性化にも結びついています。

イ　10年後（令和12年）の目指す姿

○　地域の多彩なスポーツ資源に対する県民の認知が高まり、それらを活用した地域づくりの取組が県内各地で盛んになることで、新たな賑わいの創出や地域経済の活性化などの成果が現れ始めています。

○　多くの県民が野球やサッカーといった身近なスポーツに限らず、都市と自然の近接性という本県の強みを生かし、マリンスポーツやウィンタースポーツ、アーバンスポーツ、ｅスポーツといった多様なスポーツを楽しんでいます。

○　スポーツを「する」だけでなく、県内のトップチームやアスリートの活躍を「みる」ことや、スポーツボランティアなどのスポーツ活動を「ささえる」輪が広がることで、県民同士の一体感が高まり、広島が新たな「スポーツ王国」として広く認知され、地域への愛着や誇りが醸成されつつあります。

○　パラスポーツについて県民の認知が高まり、障害の有無や、年齢、性別を問わず、誰もが参画し、楽しむことで、スポーツが多様性を認め合うきっかけとなっています。

２　第２期計画（平成31年度～令和５年度）の振り返り

第２期計画は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、スポーツに対する国民の関心が高まる中、本県としても、こうした機運の高まりを好機と捉え、スポーツの力を活用して、県民の誰もが健康と豊かさを実感できる社会を目指す計画であった。

「スポーツを核とした豊かな地域づくり～スポーツの力で社会を変える。未来へつなぐ。～」という基本理念のもと、スポーツの持つ内在的な力（個人に対して、楽しみや喜びといった充足感を与えたり、心身の健全な発達、健康・体力の保持・増進等を促す力）だけでなく、外在的な力（コミュニティの形成や地域アイデンティティの醸成、健康長寿社会や多様性が尊重される社会の実現、地域経済の活性化や医療費の抑制などに貢献する力）も積極的に活用し、県民が健康と豊かさを実感できる、多様性が尊重される、平和で持続可能な社会の実現に向けて取組を行った。

第２期計画期間中の外的環境として、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナウイルス」という。）の感染拡大があった。第２期計画初年度末（令和２年３月）、新型コロナウイルスが世界的な規模で感染拡大する中、本県でも最初の感染者が確認された。その後、感染は拡大し、人々の日常生活は一変した。スポーツ施設の利用制限や全国一斉の学校休業要請などが行われ、スポーツ活動どころか人と人との接触を可能な限りなくすという厳しい制約下での生活が始まった。地域コミュニティで行われる体操教室から大規模な競技大会まで、あらゆるスポーツ活動が中止や延期を余儀なくされ、スポーツに親しむ機会が失われていった。

そうした中にあっても、本県のスポーツ関係者は、ガイドラインを策定して感染症対策を徹底し、様々な創意工夫を凝らしながら、日常的にスポーツを楽しむ機会を取り戻す取組を続けた。このような取組は、スポーツを通じて、人々や社会を勇気づけるものであり、新型コロナウイルス禍、県民にとっても、スポーツの力を改めて認識させられるものであった。

第２期計画の成果として、「スポーツを通じた地域・経済の活性化」では、「わがまち❤スポーツ」の取組を始め、これまで11市町が地域のスポーツ資源を活用した取組を開始し、三次市の女子野球のように、地域の誇りや愛着、交流人口の拡大につながる好事例も出てきている。「スポーツを通じた、多様性が尊重される、平和で持続可能な社会の実現」では、パラスポーツの事業を組み立て直し、「普及啓発・認知向上」、「場の充実・機会の確保」、「競技力向上」の３施策を有機的、連続的に結び付け、それらを「支える土台づくり」のために、多様なキープレーヤーとの一体的な取組を始めるなど、共生社会の実現に向けた一歩を踏み出すことができた。

一方、人口減少、少子化、高齢化は加速を続け、学校の部活動が成立しない状況も生まれたり、コミュニティの衰退によって地域のつながりが希薄化したり、地域や社会が抱える課題は深刻さを増している。このような中、「スポーツ実施率」は目標を下回る状況が続いており、今後は、県民の誰もがスポーツを楽しむことで健康と豊かさを実感できる社会に向けた取組の強化が必要である。また、国民体育大会における少年種別の成績が低迷する中、スポーツを通じた、子供たちの夢や希望への挑戦を支えるための取組についても強化が必要である。

第３期計画では、第２期計画の振り返りを踏まえ、県民の誰もがスポーツを楽しむことで健康と豊かさを実感し、スポーツの力によって本県及び地域社会への愛着や誇りが醸成され、スポーツを通じて夢や希望に挑戦できる社会の実現に向けて取り組むこととしたい。

なお、第２期計画における４つの政策目標別の振り返りは次のとおりである。

Ⅰ　スポーツを通じた地域・経済の活性化

計画	将来イメージ	スポーツを楽しむため、国内外から地域に人が集い、交流することにより、地域に活気や豊かさが生まれている。
	主な施策	・スポーツを通じた魅力ある地域づくりの推進 ・スポーツの成長産業化 ・東京オリンピック・パラリンピックを契機とした地域活性化
	成果指標	スポーツによる地域の活気や豊かさの実現度合い（定性）
	目標値(2023)	スポーツに関する取組みにより、地域に活気や豊かさが生まれている。
振返り	取組状況	・県内の多彩なスポーツ資源を活用し、県内各地における多様な活性化の姿を生み出せるよう、広島版スポーツコミッション（SAH）を創設（R2.4）し、次の取組を実施した。 ①スポーツを活用した地域活性化に向けて取り組む市町を支援する「わがまち💜スポーツ」を推進。 ②県民参加型広島横断スポーツ応援プロジェクト「Team Wish」を推進。
	実績	・SAHの取組により、「わがまち💜スポーツ」に参加する市町は着実に増加しており、三次市でWBSC女子野球ワールドカップグループステージが開催されるなど好事例も出てきている。 ・参加市町のうちR4年度までに県による財政支援が終了した３市町については、現時点においては独自の取組を継続できているが、R5年度以降に財政支援が終了する他市町も含めて、今後の取組継続について、SAHとしても積極的に関与しながら戦略的に取り組む必要がある。 ・未参加市町については、取組のメリットが十分に浸透していない、推進体制が整備されていないなどの状況がある。
	課題	・「わがまち💜スポーツ」の取組については11市町で進行中であるが、多くの取組において推進体制は十分でない。 ・各市町において、取組は進んでいるが、財政支援が終了した市町に対して、人的支援などのノウハウ提供に加え、継続的な財政支援のあり方、取組の主体となる市町の推進体制の充実について検討する必要がある。 ・今後、未参加市町の参加を促すためには、SAHの更なる認知度向上、他市町における成功事例の共有などを進めていく必要がある。 ・高齢者の健康づくりなど多様化する地域課題に対し、解決のためのノウハウを蓄積、展開していく必要がある。また、SAHの関係者への提案力（信頼、認知度）の更なる強化を図る必要がある。
	第３期計画に向けて	・確実に地域の活性化に繋げるため、スタート支援のみではなく、軌道に乗るまでの継続的な支援のあり方、取組の主体となる市町の推進体制の充実に向けた方策を検討する。 ・多様化する地域課題に対応するため、SAHとして、関係部局やスポーツ団体等と積極的に連携し、地域課題解決のためのノウハウを市町に提供していく。
	摘要	・アーバンスポーツについては、FISEの開催を重ねる中で、アカデミー誘致につなげる目論見であったが、2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、FISEを開催できていない。 ・オリンピック大会後も交流の火を灯し続けるため、サッカーを通じたメキシコ交流事業を実施（R4.8来日、R5.3訪墨）し、交流協定を締結した（R5.6）。

（参考データ）「わがまち💜スポーツ」により目指すべき姿に向け取組を実施している市町数

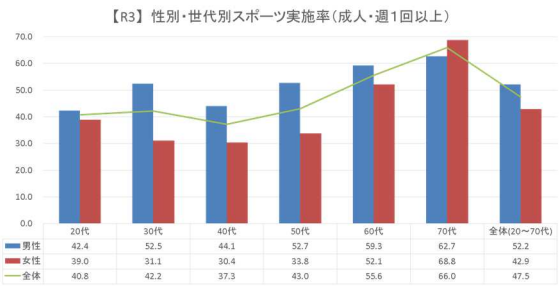
計画策定時（H30年度）	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
―	―	３市町	６市町	８市町

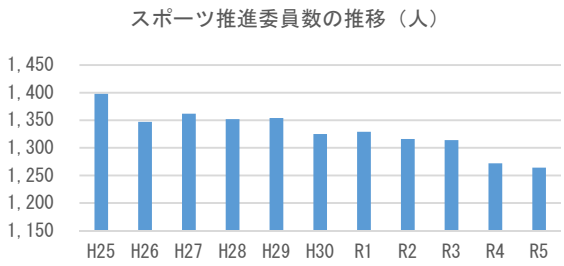
※「わがまち💜スポーツ」は、 R2年度から事業開始しており、上記実績は累計である。

Ⅱ　スポーツを通じた健康長寿の達成とスポーツ参画人口の拡大

計画	将来イメージ	県民が積極的にスポーツに取り組んでおり、健康で活力ある生活を満喫しています。
	主な施策	・スポーツを通じた健康長寿の延伸 ・子供のスポーツ活動の充実（幼児期、学校教育、環境整備） ・活動を支える人材の育成とスポーツに親しむ機会・場の充実
	成果指標	20歳以上の県民のスポーツ実施率（週１回以上）
	目標値(2023)	65.0%
振返り	取組状況	・スポーツ推進委員研修会、総合型地域スポーツクラブマネジメント研修会を実施し、生涯スポーツの活動を支える人材の育成を図った。 ・学校体育スポーツ研修講座や指導主事を派遣した各種研修会を通して、体育科授業における教師の指導力向上に取り組んでいる。 ・県民のスポーツ実施を促す取組として、プロスポーツチームやトップス広島と連携し、トップアスリートの協力を得て、指導者養成やスポーツ教室などを実施した。
	実績	計画策定時（平成30年度）　47.9%　【平成30年12月調査】 令和元年度　41.8%　【令和２年１月調査】 令和２年度　50.1%　【令和３年１月調査】 令和３年度　47.5%　【令和４年１月調査】 令和４年度　45.1%　【令和４年10月調査】
	課題	・現行の研修会だけでは、健康長寿の延伸に直接つながらず、本質的なアプローチとなっていない。また、社会体育施設の老朽化などが進んでおり、県民がスポーツを身近で楽しむスポーツ環境の整備も課題となっている。 ・幼児期に体を動かす運動遊びが健康長寿、生涯スポーツに影響するといわれているが、専門家などと連携することができず、幼児期を対象とした取組が実施できていない。 ・地域の指導者、スポーツ推進委員等の高齢化に伴い生涯スポーツの活動を支える人材が不足している。 ・公立中学校運動部活動の地域連携・地域移行については、本格的な導入に向けて、各市町で実証事業などが展開されており、(教育委員会や市町と連携して)受け皿等を検討していく必要がある。
	第３期計画に向けて	・世代、関心などのセグメンテーションを行った上で、ターゲットに応じた取組を検討する。また、身近な公共空間を活用して、誰もがスポーツを楽しめる環境を整える取組を検討する。 ・幼児期を対象とした取組については、専門家と連携し、研究に着手し、実証事業を検討する。 ・地域の指導者等の人材不足を補完するため、健康科学・スポーツ医科学の知見を積極的に活用し、スポーツ医科学の専門知識有するトレーナーの育成・活用を検討する。 ・公立中学校運動部活動の地域連携・地域移行に向けて、各市町の実情に応じた実証事業を積み重ねていく。
	摘要	ー

（参考データ）





Ⅲ　競技力の向上

計画	将来イメージ	多くの有望なジュニアアスリートが育ち、本県ゆかりのアスリートが国際大会や全国大会で活躍しており、応援する県民に一体感や地域への誇りが生まれている。
	主な施策	・トップアスリートの戦略的な発掘・育成・強化 ・障害者スポーツのトップアスリートの戦略的な発掘・育成・強化 ・選手をサポートする体制・環境の充実
	成果指標	国民体育大会における男女総合成績 全国障害者スポーツ大会の成績［メダル獲得率］
	目標値(2023)	国民体育大会における男女総合成績８位（少年種別14位） 全国障害者スポーツ大会の成績［メダル獲得率］62.3%（計画期初62.3%）
振返り	取組状況	・国体成績の向上に向け、競技団体の強化合宿や指導者招聘事業を実施している。 ・ジュニアの競技力の底上げを図るため、スーパージュニア育成プログラム（小学４～６年生対象）、ひろしまスポーツアカデミー（中学生対象）、競技力向上拠点校（高校生対象）を実施している。
	実績	計画策定時（平成30年度）　18位　（少年種別27位） 令和元年度　20位　（少年種別26位） 令和２年度　大会中止 令和３年度　大会中止 令和４年度　26位　（少年種別46位）
	課題	・ジュニアの国体成績は伸び悩んでおり、まずは、スポーツ推進施策における競技力向上の意義をどう位置付けるか、再定義をした上で、立て直しが必要である。 ・公立中学校運動部活動の地域連携・地域移行によりジュニアの育成を支えていた環境（土台）が大きく変化していくと考えられ、競技力向上のための指導者の確保、養成が大きな課題となっている。
	第３期計画に向けて	・競技力向上の意義を、「個」の夢や希望への「挑戦」の後押しと再定義した上で、課題である指導者の養成・確保を含め、トップアスリートを目指すジュニアの挑戦を支えるために、良質な育成環境を整え、個にとって最適なパスウェイを用意することを検討する。 ・既存の競技力向上に係る事業についても、「個」の夢や希望への「挑戦」の後押しを目的とした上で、各事業の選手育成の位置付けを整理する。 ・効果的なトレーニング、指導者不足を補完する観点からも、スポーツ医科学の知見の積極的な活用を行うとともに、スポーツ医科学に基づいた効率的、効果的な指導がなされる取組を検討する。 ・公立中学校運動部活動の地域連携・地域移行に向けて、各市町の実情に応じた実証事業を積み重ねていく。【再掲】
	摘要	・ハラスメント、ドーピングなどに対処するため、スポーツ・インテグリティの推進、競技団体のガバナンス機能強化にも努める。

（参考データ）全国障害者スポーツ大会の成績［メダル獲得率］

目標値（R5年度）	計画策定時（H30年度）	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
62.3%	62.3%	大会中止	大会中止	大会中止	59.6%

※　メダル獲得率が高い理由は、細やかなディビジョニングで競技をするためである。

Ⅳ　スポーツを通じた多様性が尊重される平和で持続可能な社会の実現

計画	将来イメージ	スポーツの力により、障害の有無や人種、国籍等を問わず、誰もが尊重される、平和で環境に配慮した社会が実現されている。
	主な施策	・スポーツを通じた、多様で寛容な社会づくりの推進 ・スポーツを通じた平和の推進 ・スポーツを通じた環境に配慮した社会づくり
	成果指標	人権・平和・環境とスポーツが連携したイベント数
	目標値(2023)	15件
振返り	取組状況	・パラスポーツについては、令和４年度に事業計画を見直した。令和５年度から新たな体制となった広島県パラスポーツ協会を中心に、「普及啓発・認知向上」「場の充実・機会の確保」「競技力向上」を有機的・連続的に結び付けるため、「支える土台づくり」となる多様なキープレーヤー（※）との一体的な取組に着手した。 ※市町、競技団体、民間企業、大学、ボランティア、指導者、理学療法士等)」 ・平和発信については、平和国際大会への開催支援（HiFA平和記念2022Balcom BMW CUP広島国際ユースサッカー）や、「G7gymnasticsひろしま」の開催等、協会・団体と連携した取組を行った。
	実績	計画策定時（平成30年度）　２件 令和元年度　３件 令和２年度　２件 令和３年度　２件 令和４年度　２件
	課題	・パラスポーツについては、「パラスポーツ推進事業計画」を着実に進めていくため、PDCAサイクルを定期的に実践していく必要がある。 ・スポーツを通じた平和の推進や環境に配慮した社会づくりは、具体的な取組ができていない。一方、プロチームとの連携により各分野への協力を積極的に行っている。
	第３期計画に向けて	・パラスポーツについては、政策目標Ⅰに再編したうえで、「パラスポーツ推進事業計画」を着実に進める。 ・平和推進や環境に配慮した社会づくりについては、平和や環境に限らず、各分野が進める施策の推進への協力としてまとめ、プロスポーツなどと連携した取組を継続・強化する。また、これに伴い、政策目標Ⅱへ再編する。
	摘要	・国際平和マラソンは、今年度大会から中止となった。

３　スポーツを取り巻く環境

３の振り返りにより抽出した施策ごとの課題の解決に向けた検討に当たり、踏まえるべき全国及び本県固有の環境変化などについて、次のとおり整理する。

(1) 全国の状況及び国の動向

ア　第３期スポーツ基本計画（６つの重点施策）

（令和４年３月、スポーツ庁）

○　持続可能な国際競争力の向上　現施策：Ⅲ１・３

・　国内協議連盟(NF)の強化戦略プランの実効化を支援、<u>アスリート育成パスウェイを構築</u>、<u>スポーツ医・科学、情報等による支援を充実</u>、地域の競技力向上を支える体制を構築

○　大規模大会の運営ノウハウの継承　現施策：Ⅰ２

○　<u>共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進</u>　現施策：Ⅰ３

・　東京大会による共生社会への理解・関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画を促進、オリ・パラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進

○　地方創生・まちづくり　現施策：Ⅰ１

・　東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生・まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着

○　スポーツを通じた国際交流・協力　現施策：Ⅰ３

○　スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

イ　Sport in Lifeプロジェクト　現施策：Ⅱ１、３

（令和２年度～、スポーツ庁）

スポーツ庁は、一人でも多くの方にスポーツを楽しんでいただき、**スポーツを行うことが生活習慣の一部となるような社会を目指し、**「Sport in Lifeプロジェクト」をスタート。自治体やスポーツ団体、そして経済団体、企業等がそれぞれ独自で進めるスポーツを推進する取組をさらに盛り上げていくことで、東京2020大会のレガシーとして、多くの方にスポーツを楽しんでいただける社会を目指す。

・　「Sport in Lifeアワード」：スポーツ人口の拡大に資する優れた取組を表彰

・　「Sport in Lifeコンソーシアム」：経済団体などの関係団体でコンソーシアム設立

ウ　スポーツツーリズムの活性化　現施策：Ⅰ２

（令和５年７月（中間報告）、第２期スポーツ未来開拓会議）

訪日外国人旅行者の増加、地方への誘客、消費額の増加促進が重要とされており、我が国の強みを生かしたスポーツツーリズムを引き続き推進。

・　スポーツ団体と観光業者や自治体等との連携による取組強化

・　特色ある地域資源や我が国の強みを生かした取組の拡大

エ　部活動の地域移行　現施策：Ⅱ２、３、Ⅲ１

（令和４年12月　学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン）

令和４年夏に取りまとめられた部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、平成30年に策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を統合した上で全面的に改定。これにより、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方を提示。

令和５年度から令和７年度までの３年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す。

オ　スポーツ医・科学的支援　現施策：Ⅱ２、３、Ⅲ１

（令和４年11月　地域におけるスポーツ医・科学支援の在り方に関する検討会議）

スポーツ医・科学分野の研究・支援を推進し、科学的根拠に基づく選手強化活動の充実を図ることは、我が国の国際競技力の向上に不可欠であるとともに、アスリートが健康を維持しながら安全に競技を実施するためにも極めて重要。これを実現するためには、都道府県を始めとした地方公共団体が設置するスポーツ医・科学センターや関係機関の連携による地域レベルでのアスリート等に対するスポーツ医・科学支援を実施する体制を構築することが必要。

(2) 本県固有の状況

ア　トップスポーツチームの活躍　現施策：Ⅰ2、Ⅱ3

広島東洋カープは、新井監督が就任、サンフレッチェは、令和４年度ルヴァンカップ優勝、令和６年新サッカースタジアム、ドラゴンフライズは、初のＣＳ出場、新B1参加表明など、広島県のトップスポーツチームが活躍しており、そうしたムーブメントを積極的に活用する必要がある。

トップスひろしま（12団体）	サンフレッチェ広島、JTサンダース、安芸高田ワクナガハンドボールクラブ、イズミメイプルレッズ、広島ガスバドミントン部、NTT西日本ブルーグランツ、中国電力陸上競技部、コカ･コーラレッドスパークス ホッケー部、広島東洋カープ、広島ドラゴンフライズ、ヴィクトワール広島
Team WISH（25団体）	アフィーレ広島、イズミメイプルレッズ、ヴィクトワール広島、NTT西日本ソフトテニス部、大野石油広島オイラーズ、小泉病院女子ソフトボール部、コカ・コーラレッドスパークス、サンフレッチェ広島、サンフレッチェ広島レジーナ、JTサンダース、スリストム広島、ダイソー女子駅伝部、中国電力女子卓球部、中国電力陸上競技部、中国電力レッドレグリオンズ、どんぐり北広島ソフトテニスクラブ、はつかいちサンブレイズ、広島エフ・ドゥ、広島ガスバトミントン部、広島東洋カープ、広島ドラゴンフライズ、福山シティフットボールクラブ、福山バッツ、マツダスカイアクティブズ広島、湧永レオリック

イ　全国トップクラスの「スポーツ観戦率」　現施策：Ⅰ2、Ⅱ3

本県は、カープを中心とした多くのトップチームが存在することから、スポーツ観戦率「みる」は、各調査においても全国トップクラスであり、「みる」をスポーツ実施率「する」に繋げていく必要がある。

スポーツ観覧・観戦（テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く）をした人の割合（10歳以上）

（単位：%）

平成13年（2001）			平成18年（2006）			平成23年（2011）			平成28年（2016）			令和3年（2021）		
順位	都道府県	行動者率	順位	都道府県	行動者率	順位	都道府県	行動者率	順位	都道府県	行動者率	順位	都道府県	行動者率
1	福岡県	24.9	1	福岡県	26.0	1	広島県	27.6	1	広島県	32.9	1	広島県	22.9
2	愛知県	23.9	2	宮城県	25.8	2	宮城県	24.6	2	宮城県	26.4	2	宮城県	19.2
3	広島県	22.8	3	東京都	24.0	3	山口県	21.9	3	福岡県	26.1	3	福岡県	17.4
4	東京都	22.0	4	愛知県	23.8	4	愛知県	21.7	4	神奈川県	25.3	4	大分県	17.1
5	宮城県	21.5	5	北海道	23.6	4	福岡県	21.7	5	北海道	24.6	5	愛知県	16.0
5	埼玉県	21.5	5	佐賀県	23.6	6	北海道	21.5	6	東京都	23.8	6	北海道	15.5
7	千葉県	21.3	7	神奈川県	22.7	7	東京都	20.5	7	千葉県	23.0	7	熊本県	15.3
8	神奈川県	20.6	8	兵庫県	22.2	8	兵庫県	20.2	8	愛知県	22.9	8	神奈川県	15.2
9	佐賀県	20.4	9	千葉県	22.1	9	佐賀県	19.5	9	佐賀県	22.7	9	京都府	15.2
10	岐阜県	20.1	10	大分県	22.0	10	山梨県	18.9	10	兵庫県	22.5	10	東京都	15.1
			13	広島県	21.4									
全国		19.4	全国		21.1	全国		18.6	全国		21.5	全国		14.5

資料　社会生活基本調査「男女,趣味・娯楽の種類別行動者率10歳以上)」(総務省統計局)

ウ　全国的に下位の健康寿命　現施策：Ⅱ1

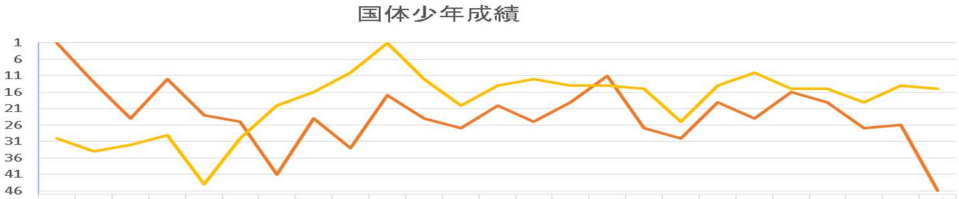
広島県は、全国平均に比べ、平均寿命は長いものの、特に女性の健康寿命が短く、健康増進への対策が必要である。

区分	男性		女性	
	広島県	全国	広島県	全国
平均寿命（H27）【A】	81.08 年（９位）	80.77 年	87.33 年（10 位）	87.01 年
健康寿命（R1）【B】	72.71 年（19 位）	72.68 年	74.59 年（43 位）	75.38 年
（参考）平均寿命－健康寿命	8.37 年	8.09 年	12.74 年	11.63 年

出典　：　国勢調査（平均寿命）、国民生活基礎調査（健康寿命）

エ　国民体育大会成績　現施策:Ⅲ1・3

令和４年度の第77回とちぎ大会では、広島県は少年種別46位という低位の成績であった。ジュニアの発掘・育成・強化について、原因を分析し、立て直しを図る必要がある。



	H8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	R4年
広島県	1	13	24	12	23	25	41	24	33	17	24	27	20	25	19	11	27	30	19	24	16	19	27	26	46
岡山県	30	34	32	29	44	30	20	16	10	1	12	20	14	12	14	14	15	25	14	10	15	15	19	14	15

広島県　岡山県

オ　パラスポーツ大会の開催　現施策:Ⅲ2、3

令和４年10月には、「2022ハンザワールド」((2022ハンザ・アジアパシフィック選手権 &パラワールドセーリング選手権ハンザクラス広島))、11月には、「2022年第８回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・広島」大会が開催されるなど、パラスポーツの国際大会の開催により、パラスポーツへの関心が高まっている。

４　第２期計画の振返り及び外部環境から導き出される検討の視点（SWOT分析）

第２期計画の振返り及び全国、広島県固有の外部環境を踏まえ、SWOT分析を行った。

Ｓ（強み）	Ｏ（機会）
○「わがまち♥スポーツ」に参加する市町数が着実に増加しており、モデルとなる好事例も生まれている。 ○多様なプロスポーツチーム、実業団スポーツチーム（トップスひろしま）、それを支える企業がある。 ○新サッカースタジアムの建設、新アリーナに向けた検討（ドラゴンフライズ）が進んでいる。 ○スポーツ直接観戦率は全国トップクラスである。	○国においては、スポーツ未来開拓会議でスポーツの成長産業化の議論がされている。 ○国においても生涯スポーツを重視し、取組が始まっている。 ○医科学的根拠に基づいたトレーニングの普及が全国的に進んでいる。 ○インクルーシブな社会の実現に向けて関心が高まっており、2024年にはパリパラリンピック、2025年には東京デフリンピック、2026年にはアジアパラ競技大会(名古屋)が予定されている。
Ｗ（弱み）	**Ｔ（脅威）**
○高齢化などに伴い、指導者が不足している。 ○スポーツ実施率が低い。 ○健康寿命が全国に比べて低い。 ○ジュニア世代の競技力が低下している。（国民体育大会少年種別の成績が低位にある。）	○人口減少、少子化、高齢化が加速している。 ○部活動実施環境の変化に伴う、ジュニア世代の運動機会減少の可能性がある。

第３期計画では、SWOT分析における本県の「強み（Ｓ）」と「機会（Ｏ）」を積極的に活用して、「弱み（Ｗ）」（低いスポーツ実施率、競技力の低迷）を克服し、これにより、将来の「脅威（Ｔ）」を回避していくことを考えたい。

特に「弱み（Ｗ）」であるスポーツ実施率及びジュニア世代の競技力については、第３期計画に盛り込み、しっかりと取り組んで行くこととする。

① 幼児期の運動遊びが生涯スポーツの習慣化に影響を与えるとの報告もあることから、県民が将来に渡ってスポーツを身近に親しむ基礎となる幼児期から多様な運動遊び・スポーツに触れ、スポーツが好きになる取組を検討する。

② 競技力向上については、「個」の夢や希望への「挑戦」を後押しと再定義した上で、トップアスリートを目指すジュニアの挑戦を支えるために、良質な育成環境を整え、個にとって最適なパスウェイを用意することを検討する。

5 第３期広島県スポーツ推進計画の概要

(1) 基本理念

２期計画の基本理念を基礎に置いたうえで、２期計画では、一人一人が健康で暮らしている社会の実現に向けた取組が十分にできなかったため、３期計画では県民がスポーツを通じて健康と豊かさを実感できるための取組を充実することとし、「一人一人の健康」を追記する。

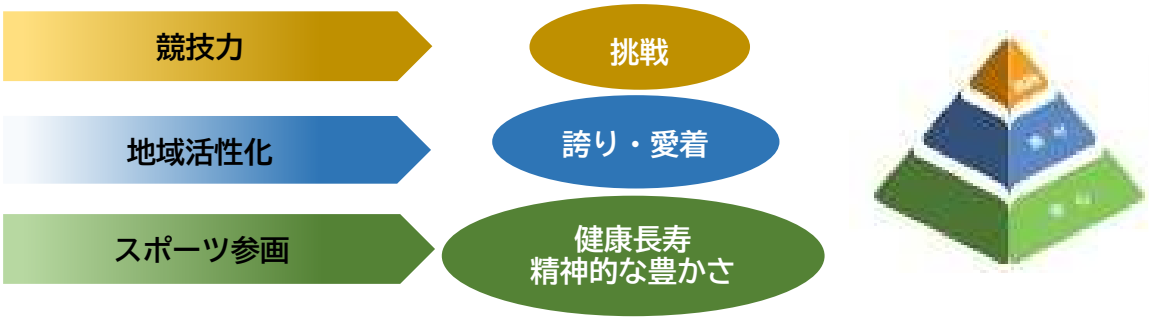
基本理念	スポーツを核とした一人一人が**健康で**豊かな地域づくり ～スポーツの力で社会を変える。未来へつなぐ。～

(2) 目指す姿

「安心▷誇り▷挑戦ひろしまビジョン」の分野別計画として、ビジョンの目指す姿（安心、誇り、挑戦）をスポーツの力で寄与していくため、目指す姿も「安心」「誇り」「挑戦」という構成とする。

第２期計画	県民の誰もがスポーツを楽しんでおり、スポーツの力によって、県民が健康と豊かさと幸せを実感できる、多様性が尊重される、平和で持続可能な社会が実現されています。
第３期計画	県民の誰もがスポーツを楽しむことで健康と豊かさを実感し、スポーツの力によって本県及び地域社会への愛着や誇りが醸成され、スポーツを通じて夢や希望に挑戦できる社会が実現されています。

《目指す姿と政策体系》



ア 「県民の誰もがスポーツを楽しむことで、健康と豊かさを実感しており、」

「する」「みる」「ささえる」、少なくともいずれか一つで、県民の誰もがスポーツを楽しんでいる。特に「する」については、家の中、近所の公園、体育施設等で思い思いに、スポーツを楽しんでいる。また、スポーツを楽しむことで、人生を楽しく、健康的で、生き生きした生活を営んでいる。

（参考） スポーツの語源 （スポーツ庁Web広報マガジンより）	英語の「Sport」は19～20世紀にかけて世界で一般化した言葉であり、その由来はラテン語の「deportare」（デポルターレ）という単語だとされている。 デポルターレとは、「運び去る、運搬する」の意。転じて、精神的な次元の移動・転換、やがて「義務からの気分転換、元気の回復」仕事や家事といった「日々の生活から離れる」気晴らしや遊び、楽しみ、休養といった要素を指します。 つまりこれらがスポーツの本質であり、人生を楽しく、健康的で生き生きとしたものにするために、より楽しむために勝利を追及するもよし、自分ペースで楽しむもよし、誰もが自由に身体を動かし、自由に観戦し、楽しめるものであるべきなのです。

イ　「スポーツの力によって、本県及び地域社会への愛着や誇りが醸成され」

広島の強みであるプロスポーツ、実業団スポーツ及び本県ゆかりのトップアスリートが活躍することで、熱狂や感動を享受することや、地域において、スポーツ資源を活用した地域づくりの取組が、地域のコミュニティを結束し、愛着や誇りが醸成されている。

ウ　「夢や希望に挑戦できる社会が実現されています」

県民一人一人が、自らの資質や思いに応じた挑戦ができる良質なスポーツ実施環境が整っており、特に、ジュニア世代のスポーツを通じたそれぞれの夢や希望への「挑戦」を支え、後押しできる社会が実現しています。

(3) 第２期計画及び第３期計画における施策の構成（調整中）

第２期計画	第３期計画
Ⅰスポーツを通じた地域・経済の活性化 １スポーツを通じた魅力ある地域づくりの推進 ２スポーツの成長産業化 ３東京オリンピック・パラリンピックを契機とした地域活性化	**Ⅱスポーツを通じた地域・経済の活性化** １地域のスポーツ資源を活用した地域・経済の活性化 ２スポーツの成長産業化 ３スポーツを通じた交流・施策の推進
Ⅱスポーツを通じた健康長寿の達成とスポーツ参画人口の拡大 １スポーツを通じた健康寿命の延伸 ２子供のスポーツ活動の充実 ３活動を支える人材の育成とスポーツに親しむ機会・場の充実	**Ⅰ誰もがスポーツを楽しむことができている社会の実現** １ライフステージに応じたスポーツ実施環境の創出 ２スポーツが身近にある環境づくり ３パラスポーツを通じた活力ある共生社会の実現 ４アーバンスポーツや新しいスポーツの推進
Ⅲ競技力の向上 １トップアスリートの戦略的な発掘・育成・強化 ２障害者スポーツのトップアスリートの戦略的な発掘・育成・強化 ３選手をサポートする体制・環境の充実	**Ⅲ競技力の向上** ～調整中～ 子供たちがスポーツで夢や希望に挑戦できる環境の創出
Ⅳスポーツを通じた、多様性が尊重される、平和で持続可能な社会の実現 １スポーツを通じた、多様で寛容な社会づくりの推進 ２スポーツを通じた平和の推進 ３スポーツを通じた環境に配慮した社会づくり	→Ⅰへ再編 →Ⅱへ再編（プロスポーツ等と連携した各分野の施策推進に対する協力）